

麻布大学 2022

<http://www.azabu-u.ac.jp/>

求人のため の御案内

獣医学部

- 獣医学科
- 動物応用科学科

生命・環境科学部

- 臨床検査技術学科
- 食品生命科学科
- 環境科学科

A

Z

A

B

U

UNIVERSITY



麻布大学長
川上 泰

本学は、地球共生系～人と動物と環境の共生をめざして～を教育研究の理念とし、生態系と人間社会の接点で生じている諸問題に取り組む、若き人材の育成に努めております。

21世紀初頭の基本的な課題として「持続可能な発展を遂げる社会の構築」が提唱されております。地球温暖化防止、生物多様性保存、世界遺産保護及び新興・再興感染症対策など、まさに生態系と人間社会の新たな関係が模索され、新たな観点からの倫理観、哲学が求められる時代となっております。

本学は1890年の創立以来、首尾一貫して教育研究が単なる学問としての探究に終わることなく、社会に役立たせることを建学の精神として人材の育成に努めてまいりました。

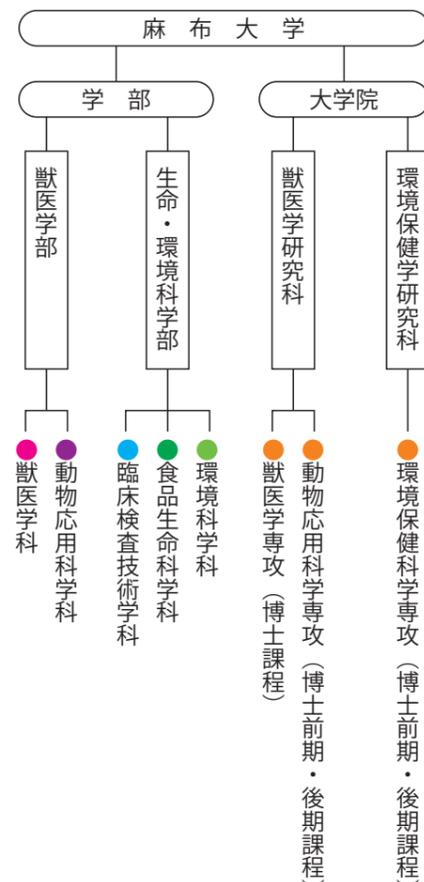
130余年に至る教育研究の過程で、獣医学、動物応用科学、臨床検査技術学、食品生命科学及び環境科学分野へと教育研究の場を伸展させ、全ての生命とその命を育む環境の分野で活躍できる、感性豊かな人材の輩出を心がけて指導を行っております。

どうか本学の教育理念を御理解いただき、職員の採用に際し本学学生に格段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

沿革 History

- 1890年 9月 東京獣医講習所開設(現 港区南麻布)
- 1894年 4月 麻布獣医学校開設
- 1912年 3月 麻布獣医畜産学校と改称
- 1934年 4月 麻布獣医専門学校に校名変更
- 1944年 12月 麻布獣医畜産学校と改称
- 1947年 6月 現在地(神奈川県相模原市)に移転
- 1950年 4月 麻布獣医科大学として開学
- 1960年 4月 大学院獣医学研究科獣医学専攻修士課程開設
- 1962年 4月 大学院獣医学研究科獣医学専攻博士課程開設
- 1965年 4月 麻布公衆衛生短期大学開学
- 1976年 4月 獣医学部家畜環境学科開設
- 1978年 4月 環境保健学部(環境保健学科及び衛生技術学科)開設
- 1979年 6月 麻布公衆衛生短期大学廃止
- 1980年 4月 麻布獣医科大学を麻布大学に名称変更、獣医学部家畜環境学科を獣医学部環境畜産学科に名称変更
- 1984年 4月 学校教育法の一部改正により獣医学教育の6年制発足
- 1988年 4月 附置生物科学総合研究所設置
- 1990年 4月 大学院獣医学研究科獣医学専攻博士課程(4年制)開設
- 1993年 4月 大学院獣医学研究科動物応用科学専攻修士課程開設
- 1994年 4月 獣医学部環境畜産学科を獣医学部動物応用科学科に改組
大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻修士課程開設
- 1995年 4月 大学院獣医学研究科動物応用科学専攻博士課程開設
- 1996年 4月 大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻博士課程開設
- 1998年 4月 環境保健学部環境保健学科を環境保健学部健康環境科学科に名称変更
- 1999年 4月 環境保健学部環境政策学科を開設
- 2003年 4月 大学院環境保健学研究科環境衛生政策専攻修士課程開設
- 2007年 4月 麻布大学獣医学部附属動物病院を麻布大学附属動物病院に組織及び名称変更
- 2008年 4月 環境保健学部を生命・環境科学部に改組
生命・環境科学部臨床検査技術学科、食品生命科学科及び環境科学科開設
- 2016年 3月 大学院環境保健学研究科環境衛生政策専攻修士課程廃止
- 2020年 9月 学園創立130周年記念式典挙行政
- 2021年 4月 麻布大学フィールドワークセンターを島根県美郷町に開設

組織図 Organization



獣医学科 Department of Veterinary Medicine

獣

医学の基盤となる動物の解剖学的構造や生理学的機構から、内科・外科的疾患や感染症およびこれらの予防・治療に至るまで、動物の健康や疾病について幅広く学びます。近年は動物の診療とともに、畜産分野における生産性向上や食品の安全性確保、さらには製薬企業などの生命科学分野における研究において、獣医師が果たす役割が大きくなっています。これらのニーズに対応できる人材を育成するために、獣医学科では教育・研究の両面で学生をサポートしています。本学獣医学科の特徴として、初年次や5年次以降の産業動物に関する臨床教育など、実践に即した教育が挙げられます。また学生は自ら課題を見出して解決する能力を身に付けられるように、3年次から研究室に属して経験を積んでいます。このような獣医療を通じて習得した基礎的ならびに臨床的な知識を生かして、製薬会社や食品会社などの企業、研究所で活躍できる卒業生を幅広く輩出しています。

小動物臨床実習

▶動物の体の中をのぞいてみよう◀

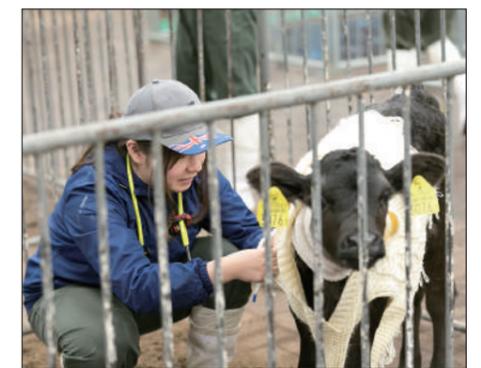
獣医師が診療業務で行う病気の動物のX線写真の読み方を、実際にコンピュータを操作しながら練習します。コンピュータと同じ画面をスクリーンに投影し、学生同士で相談したり、ポインターで示して教員に質問したりします。



産業動物臨床実習

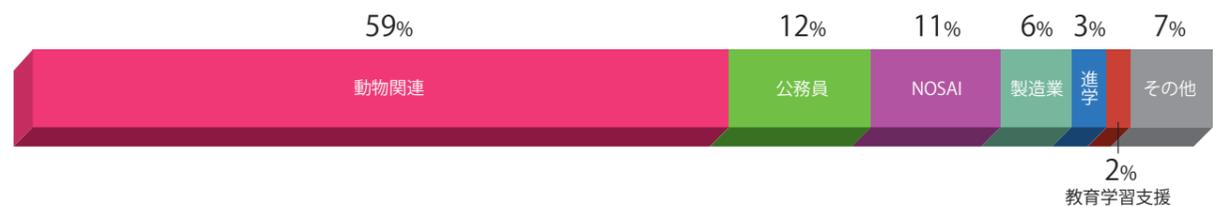
▶生産獣医療の入口は、やっぱり個体診療だ!◀

産業動物にかかわる獣医学を生産獣医療と呼びますが、基本は1頭1頭をよく観察すること、すなわち個体診療から始まります。「産業動物臨床実習」では基礎系の科目で得られた知識を総動員して、産業動物の身体の異変を理解し、適切な検査を行って診断を下すこと、さらには、最適な獣医療をどのように動物と畜産農家、消費者に提供するのかを学びます。



卒業後の進路とその傾向 (過去3年分)

第72回 獣医師国家試験合格率 92.5%



動物応用科学科 Department of Animal Science and Biotechnology

本 学科では、学生が社会で活躍するために必要な素質である情報処理理解能力のリテラシーと、協力やチームワーク能力のコンピテンシーを教育の軸に据え、動物科学を網羅的に修学した『動物生命実践的ジェネラリスト』を輩出しています。その目的を達成するため、動物系大学では日本初となるSTEM型教育プログラムを取り入れています。初年次から「動物応用科学実習」などのグループワークやアクティブラーニングを充実させています。また「卒業論文」においては、課題発見・解決・代替法の思案・データ分析にかかわる能力の育成にも力を入れています。このジェネラリスト育成教育を通じて、卒業生は、製薬業界や食品業界、教員（中学・高校の理科）、家畜人工授精師、食品衛生監視員（公務員）・管理者、実験動物技術者、ヒト生殖補助医療胚培養士、動物検疫官（国家公務員）として、動物および生命科学に関わる幅広い分野で活躍しています。

遺伝生命科学実習

▶遺伝子解析技術を実践的に学ぶ◀

動物組織からのDNA、RNAおよびタンパク質の分離。分光光度計を用いた濃度測定。ゲノムDNAの遺伝子型の判定、RNA試料を用いた遺伝子転写産物の増幅定量など、生命科学分野で広く使われている解析技術と分析機器の適切な取り扱いについて、原理を理解したうえで実行できる能力を習得します。



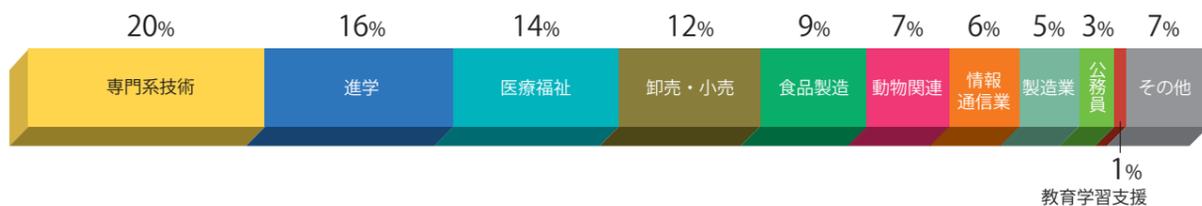
動物行動管理学実習

▶動物の飼育管理と共生について実践的に学ぶ◀

私たちの生活にとって有益な家畜や伴侶動物あるいは動物園で飼育されている展示動物といった、いわゆる応用動物の行動特性とその管理技術、およびこれらの動物との共生関係のあり方について、動物保護センターや動物園など、それぞれの飼育現場に出向いて実践的に学びます。



卒業後の進路とその傾向（過去3年分）



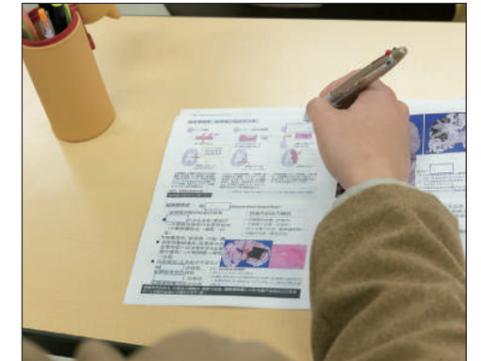
臨床検査技術学科 Department of Medical Technology

生 命や人権にかかわる医療分野で検査業務に従事する臨床検査技師は、高度な検査技術を身に付けているだけでなく、高い倫理観を有することが求められています。また、疾病予防や健康管理、あるいは食品製造・販売分野における衛生管理、治験受託機関、臨床検査試薬の開発・製造を行う企業などにおいても専門技術者が求められています。臨床検査技術学科は、チーム医療体制の実践によって求められる高度で専門的な技術と、患者様にも他の医療従事者にも信頼される豊かな人間性を備えた臨床検査技師の養成を目指しています。同時に、臨床検査技師として他の医療関連分野においてもその知識・技術を用いて活躍できるよう、最先端の科学的な知識および技術を修得させます。研究室における活動などを通じて研究に対する探究心と自己成長力を培い、理論と実践のバランスのとれた技術者の養成を目指しています。

病理学Ⅱ

▶病気の診断に必要な病変の特徴を解説◀

病気の診断に必要な病変の特徴を、図・写真を用いてわかりやすく解説します。病気の原因（病原体や栄養素の過不足など）、病気が起こるしくみ（高コレステロール血症により動脈硬化症・心筋梗塞が起こる道筋）や病気の診断方法を習得します（課題解決力）。国家試験出題例も交えて、国家試験合格とともに臨床検査技師への道を支援します。



臨床生理学実習

▶患者さんの気持ちがわかる検査技師になる！◀

患者さんを対象とする生理検査は、患者さん一人ひとりの病態を考慮しながら、より安全で丁寧な検査を行う必要があります。心電図や脳波・筋電図検査、呼吸器検査、あるいは超音波検査などの実習を通して、単に検査器機の扱い方を学ぶだけではなく、被検者を体験することにより、少しでも患者さんの気持ちを理解できるような実習を心掛けています。



卒業後の進路とその傾向（過去3年分）



第67回 臨床検査技師国家試験合格率 **90.8%**

食品生命科学科 Department of Food and Life Science

食 品生命科学科では、「食の情報」「食の機能」「食の安全」の3つの特色ある学びを通して人と社会の健康に貢献する食のエキスパートを育てます。食の情報（データサイエンス）分野では、食に関するデータ活用のための分析力（数理統計、ITスキル）、および分析結果を社会で実践に役立てるための方法を学んでいます。食の機能分野では、ω3系脂肪酸の研究、食品の機能性成分やうま味向上の研究などを行い、企業が求める商品開発力を養います。食の安全分野では、食品アレルギー物質などの有害物質の研究ができるほか、4年制大学で初めて衛生管理技術 HACCP（ハサップ）の認証取得コースを設けました。特に食品製造業の即戦力として役立つ人材を育成しています。さらに卒論研究で培った解析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を携え卒業後は、食品の製造・開発・販売、製菓・医療関連企業、食品検査・行政機関など幅広い分野で活躍する人材を育成しています。

公衆栄養学実習

▶データから探る、食と健康の問題解決法◀

食と健康の社会問題についてデータを分析し、解決法の提案、実施、評価の方法をプロジェクトベースで学ぶ実習です。学生はデータ分析力と問題解決力を身につけます。



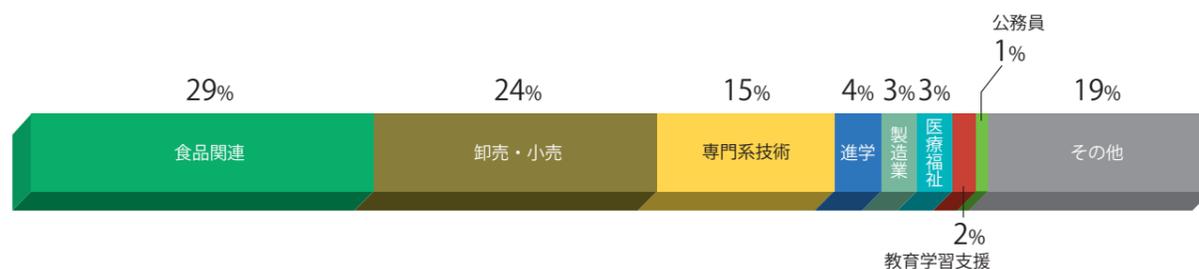
食品加工学・保蔵科学実習

▶HACCP システムを意識しながらの加工食品製造◀

IH 設備の完備した新しい実習室で一般衛生管理や HACCP システムにおいて重要な食品内部の温度モニタリングなどを実践し、衛生的な食品加工プロセスを学びます。実習では冷凍餃子やロールパン、サバの味噌煮などを製造し、最後は試食も行います。実習後は衛生管理についてのレポートを提出。履修生は楽しみながら自然と HACCP システム導入経験をしています。



卒業後の進路とその傾向（過去3年分）



環境科学科 Department of Environmental Science

環 境科学科は、従来からの環境衛生、環境分析、環境評価などの分野に加えて、2019年度からフィールドワーク教育や、企業と連携した PBL を導入し、すでに顕在化した環境課題だけでなく、将来起こりうる地球共生系の課題を把握して対応・適応を模索する新領域の科学、「未来共生科学」を標榜する学科へとリニューアルいたしました。本学科での教育により、自然環境や生活環境を様々な視点から分析・評価して環境や社会が抱える問題を発見でき、SDGs を見据えて環境保全と持続的な社会発展に貢献できる人材を養成しています。本学科を卒業した学生は、環境分析や環境衛生に関する知識や技術を生かして、理化学的・生物学的な分析・評価業務、環境の維持・改善業務などで活躍できます。また、フィールドワークでの経験を生かして、環境アセスメントや環境教育関連の仕事にも対応できます。さらに、PBL や研究室活動で身につけたコミュニケーションスキルや問題解決能力を生かして、社会問題や環境問題に関連する行政や広範な分野の企業で活躍できます。

衛生動物学・同実習

▶有害生物の管理ができる環境技術者をめざそう！◀

ヒトに感染する寄生虫や、病気を媒介するダニ、カ、ノミ、シラミ、ネズミなどの有害生物を対象とした講義を行っています。これらの動物の発育過程や生態を学び、どうすれば感染を防ぐことができるのか、どのようにしてヒトに病原体を運ぶのかなどについて理解を深めていきます。実習では、実際に生きている寄生虫や衛生動物を顕微鏡で観察します。



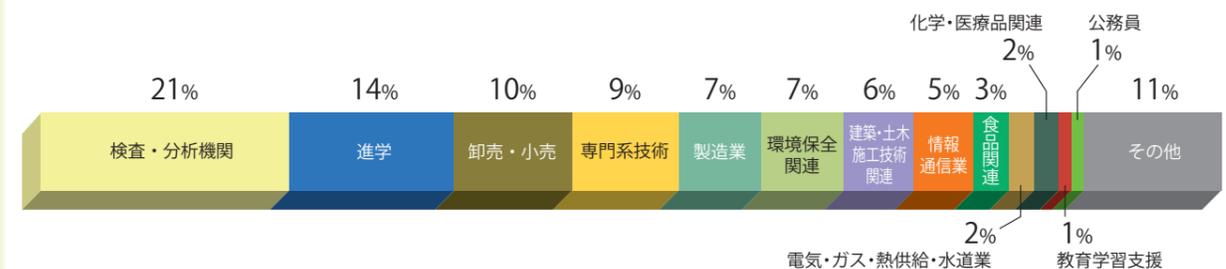
環境計量分析学実習

▶環境を守る第一歩は、正しくはかることから◀

この実習では、環境汚染の原因となる物質の種類やその量を正しくはかるスキルを学びます。我が国では、環境汚染物質の量を法律などで規制しています。環境汚染物質は、その量がわずかであっても私たちの健康や生態系に影響を及ぼします。汚染物質を正しくはかることは、現在の環境を守るだけでなく、未来の環境をより良くするための第一歩です。



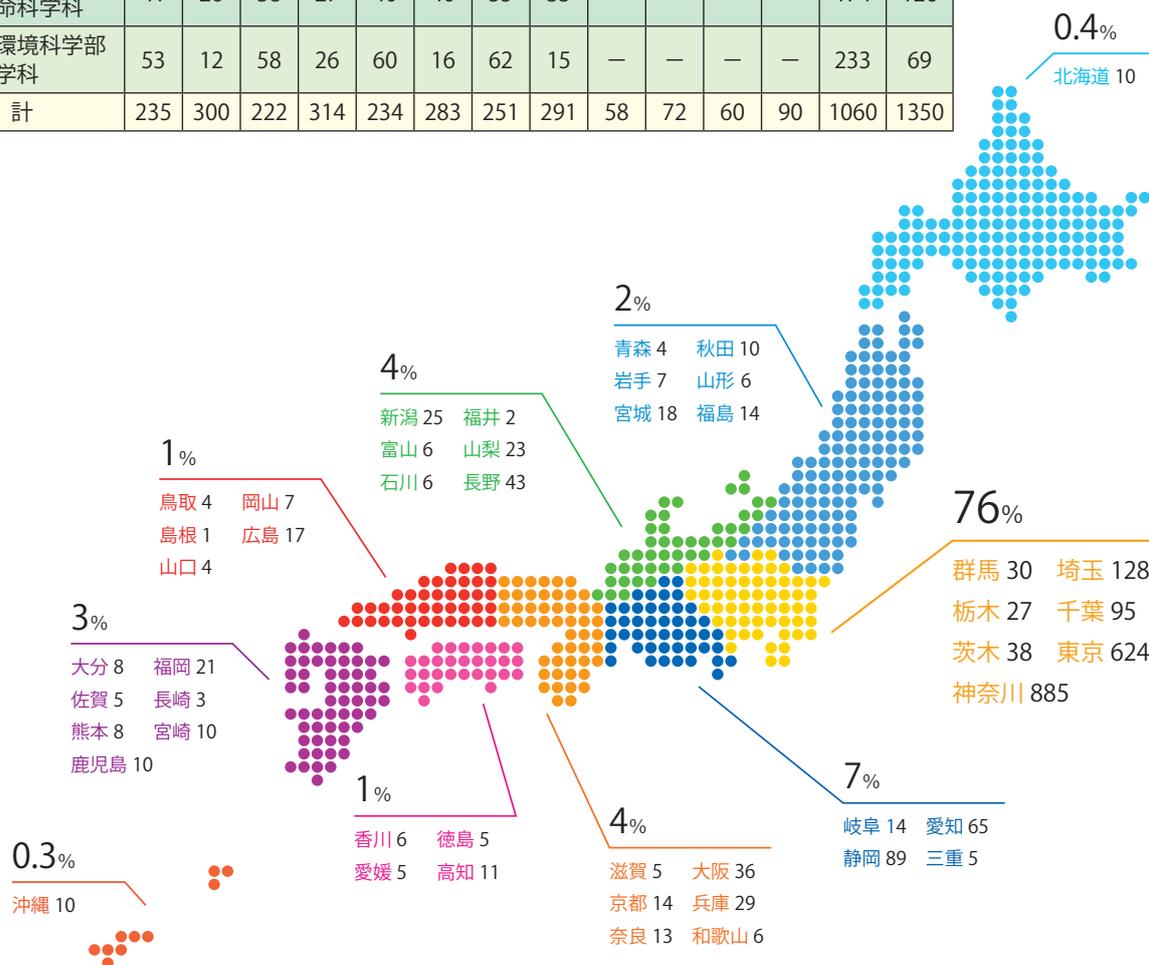
卒業後の進路とその傾向（過去3年分）



2410名 (学部生)

2021年5月現在

	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
獣医学部 獣医学科	58	99	60	95	63	78	64	85	58	72	60	90	363	519
獣医学部 動物応用科学科	51	92	40	96	44	86	39	93	—	—	—	—	174	367
生命・環境科学部 臨床検査技術学科	32	71	26	70	27	63	31	65	—	—	—	—	116	269
生命・環境科学部 食品生命科学科	41	26	38	27	40	40	55	33	—	—	—	—	174	126
生命・環境科学部 環境科学科	53	12	58	26	60	16	62	15	—	—	—	—	233	69
計	235	300	222	314	234	283	251	291	58	72	60	90	1060	1350



採用で担当の皆様へ

●求人申込について

本学では「求人受付 NAVI」を導入しております。「求人受付 NAVI」<https://www.kyujin-navi.com/uketsuke/> から求人情報の提供をお願いいたします。また、「求人受付 NAVI」を使用しない場合の求人情報の提供にあたっては、本学 HP より様式をダウンロードいただき、御送付いただきますようお願いいたします。なお、会社案内等ありましたら本学に御送付いただきますようお願いいたします。就職閲覧室に備え、活用させていただきます。

●採用合否について

採用合否の通知は、学校推薦、自由応募等に限らず、キャリア・就職支援課と本人の双方に御通知くださるようお願いいたします。

●卒業者在職者名簿について

本学では、卒業者の状況を知り、併せて就職活動の資料として活用させていただくため、本学卒業者の在職状況を調査しております。つきましては、同封の卒業者在職者名簿を御送付いただきますようお願いいたします。